



市民生活を支える「循環バス実証運行」への期待 地場産業を支える「食のまちづくり」へ大きな一歩

鈴木 正一 / 新政クラブ代表・文教民生委員会委員長・館山市監査委員 他

市民からの循環バスの運行を求める声を受け、今年1月5日から3月5日までの60日間、市街地循環バスの実証運行が行われました。館山駅東口を起終点とし、これまでバス停のなかったバイパス商業施設や市役所なども巡る北ルートと南ルートが設定されました。日常の移動手段とともに、周遊観光への活用が期待されています。引き続き、その成果や課題等を検証し、買い物や通院等、市民生活の支えとなる本格的な運行を図っていきます。

また、前澤友作館山応援基金を活用した「食のまちづくり拠点施設」整備事業が令和5年度の開設に向けて進められています。同事業は、九重地区稲の市有地を中心とした敷地約2.2ヘクタールを予定地に、農水産物の直売や飲食、加工ができる道の駅として整備し、加えて、出野尾の衛生センタ

一敷地内に有害鳥獣処理施設とジビエ加工処理施設を整備するものです。

食という字を分解すると

「人を良くする」と書きます。身土不二（しんどふじ）は、人と郷土は密接な関係にあり、地元でとれるものを食すことが健康に良いという考え方です。新政クラブでは、課題とする有害鳥獣対策を含め、これら事業をコロナ収束後の地域経済の復興策として、会派一丸となって取り組んでいきます。



コロナ禍の議員活動と市民との対話 地域の課題を市政に届ける大きな役割と責任

石井 信重 / 館山市議会議員・建設経済委員会委員 他

表紙の言葉「一期一会」は、活動の理念を表現する言葉を会派内で熟考し、人との出会いと対話を合言葉としました。館山市議会では、コロナ禍での市民との対話を維持するため、昨秋、市議会への意見等を募集し、自然災害や有害鳥獣対策への対応を求める声が多く寄せられました。

相次ぐ自然災害からの復旧・復興や新型コロナウイルス感染拡大への対応が喫緊の課題となる中、



昨年の春と秋には、令和元年房総半島台風等に団員一丸となって尽力された館山市消防団が消防

庁長官表彰と内閣総理大臣表彰を受賞され、その活動が全国に響き渡ったことは、日頃から消防団活動を支えているご家族とともに、多くの市民に勇気と誇りを与えてくれました。

また、今年1月には学校給食センターが1年半ぶりに再開しました。教室で仲良く給食を楽しむ子どもたちの笑顔とともに、お弁当を作り続けた保護者の皆さんの安堵の笑顔、おいしい給食を届けようと、年末から研修や訓練を続けてきた給食センター職員の皆さんの笑顔が思い浮かびます。消防・防災をはじめ、地域福祉・医療、教育・文化などの各分野でご活躍されている皆さんの力添えによって、会派一同「一期一会」を大切に、さらに努力をしていきたいと考えています。



県南で最大規模・生徒数720名となる「館山中学校」 自転車通学など子ども達の交通安全対策を

望月 昇 / 総務委員会委員長・都市計画審議会委員・消防委員会委員 他

4月から生徒720人が通学し、安房地域でも有数な大規模校となる館山中学校が開校します。令和元年6月の第二中学校と第三中学校の統合に関する説明会や市議会でも様々な議論が交わされてきました。

第二中学校は、自身の母校でもあり、当時は生徒1,200人が通学していましたが、現在の交通事情や社会情勢は大きく異なります。令和2年12月議会の一般通告質問では、学校周辺の通学路やスクールバス等の通学手段、第二中学校敷地内の校舎以外の整備状況について執行部へ質問し、必要な交通安全施設の整備等、生徒の安心・安全な通学環境の確保を強く要望しました。

現在の第二中学校に通う生徒数は倍以上となり、第三中学校区からの通学距離が延びることになり

ます。通学手段別ではスクールバスが約70人、徒歩が約200人、自転車が約450人と想定され



ています。対象地域や乗降場所の設定等、スクールバスの適切な運行とともに、朝の通勤時間帯に市街地を自転車や徒歩で通学する生徒は、その多くが踏み切りや横断歩道を渡ることになり、校門に接する市道は道幅が狭いため、通学時の交通安全対策が重要な課題と考えます。子ども達が安全で安心して通学できるよう、未来を担う後輩たちを見守り、継続的にその安全確保に注視していきます。



地域コミュニティとふるさと館山の景観・環境を育む 街並みや生活道路を守る環境美化を提言

倉田 孝浩 / 総務委員会委員・民生委員推薦会委員・特定空家等対策検討会議委員 他

日頃から私自身も近所のゴミ搬出場所の掃除や片づけを行っている中、近隣の皆さんからゴミ搬出場所のマナー違反や不法投棄等への悩みをよく耳にします。令和2年12月定例会の一般通告質問では、「日常生活における環境美化」をテーマに、その現況と対策について執行部へ質問しました。

ごみの搬出場所は、市内約1千600か所に及びます。ごみの搬出場所の管理をはじめ、道路や側溝、海岸の清掃など、日頃から環境美化にご尽力いただいている皆さんに感謝する一方で、不適切なごみの搬出や苦情が絶えない状況にあります。

また、観光客を迎え入れる館山バイパスや鏡ヶ浦通り等の幹線道路では、観光シーズンを前に、各道路を管理する国や県等により年に数回、除草作業が行われていますが、季節の挟間で雑草が生

い茂る様子は、良好な景観を損ね、交通の妨げとなる安全性にも問題があります。



日常生活での環境美化を

より一層進めるため、他市の事例でも見受けられるインパクトのある啓発ポスターの作成や、観光地としての良好な景観を保つため、国道・県道の除草回数を増やすよう、国・県へ働きかけるよう要望しました。自分たちが住む街が、誰から見てもきれいだと言われるように、環境美化への啓発と対策に取り組んでいきます。